

「甞る末廣農場」

郷土史家 林田利之

1. 安芸が育んだ岩崎家 (図1)

岩崎久彌は慶應元年 (1865) 8月25日、土佐国安芸郡井ノ口村 (現高知県安芸市井ノ口) で、三菱の創業者である岩崎彌太郎と妻喜勢の長男として誕生しました (図2)。

久彌は慶應義塾、三菱商業学校に学んだ後、父彌太郎が病没した翌明治19年 (1886) に米国ペンシルベニア大学に留学、財政学などを学びます (図3)。同年、彌太郎の志を継いだ実弟の彌之助は海運業からの撤退という英断を下し、新たに「三菱社」を創立 (図4)。鉱業や造船など、海上から陸上への事業に転身を果たします。また、明治26年 (1893) には、商法の施行に際して会社を改組し、「三菱合資会社」を設立、同時に甥である久彌に社長の座を譲ります。

その後久彌は、23年間にわたって三菱社の経営を主宰して新たに神戸に製糸会社を設立するなど社業を拡充し、鉱業、銀行、造船、商事、地所などの諸事業でも大躍進を果たしました。また、久彌が社長を務めた期間は国内で殖産興業、産業革命、重工業形成が重なった時期でもあり、時代の追い風に乗って、叔父彌之助によって築かれた事業の近代化と新たな事業を興して三菱の多角経営化に努めました。

三菱社をより強い会社とした後の大正5年 (1916)、久彌は従兄弟である岩崎小彌太に社長の座を譲り、農牧事業へと邁進して行くこととなります (図5)。



図2 父・彌太郎と母・喜勢



図3 米国留学生と久彌

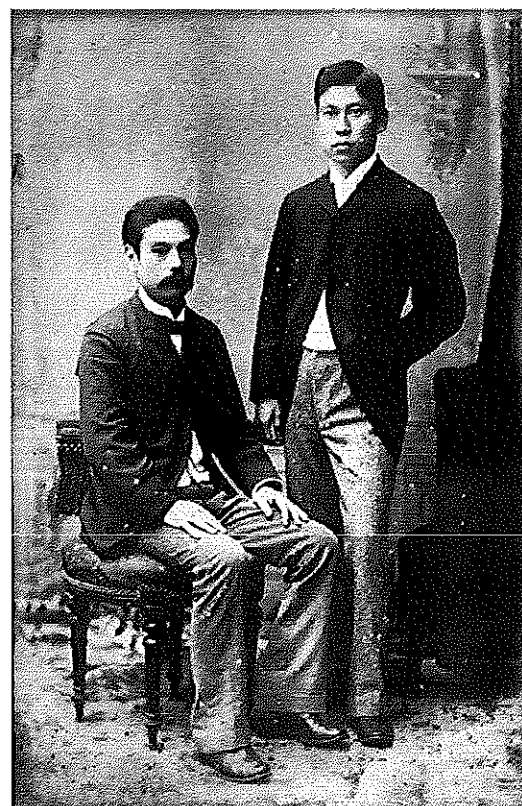


図4 三菱社社長彌之助
と副社長の久彌



図5 三菱社社長退任前の久彌 (本邸にて)



岩崎彌太郎
(1835~1885)

三菱財閥創業者で初代総帥。土佐藩家老吉田東洋に仕え、才覚を表わす。

坂本龍馬の海援隊を財政的に支援していたことはあまりにも有名である。



岩崎彌之助
(1851~1908)

三菱総帥を久彌に譲った後、第4代日本銀行総裁となる。

小野義真・井上勝と共に小岩井農場を興したことで知られ、美術収集家としての顔も持つ。



岩崎久彌
(1865~1955)

三菱社長引退後、本格的に農牧事業に携わる。

若かりし頃から蓄えた豊富な知識は末廣・小岩井農場の経営に如何なく発揮された。

図1 安芸が育んだ岩崎三代 (三菱史料館所蔵)